

J A鹿児島もつきから バレイシヨの寄贈

5月1日(月)、学校給食用としてバレイシヨ200kgが寄贈されました。

これは、地産地消と食の安心安全の推奨として子どもたちの学校給食で食べてもらいたいとの思いでJA鹿児島もつきから寄贈されたものです。

畠中和文農協南部ブロック統括支所長兼根占支所長は、「今年は天候にも恵まれて大玉傾向。また、選果場の選果機も更新されて1日当たりの処理能力も大幅に増えているので、新鮮な状態で一日でも早く消費者へ届けられるようになった。今後も、学校給食を通じて地産地消や食育にも取り組みたい。」と話されました。



MIRAI協議会設立 記念式典及び特別講演会

5月8日(月)、旧神川中体育館において錦江町まち・ひと・MIRAI創生協議会設立記念式典及び特別講演会を開催しました。

特別講演では、「錦江町の農業を考える」と題して、元食糧庁長官で高崎経済大学理事長の高木賢氏に講演をいただきました。

講演会に参加した濱川正和さん(久木野自治会)は、「講演を聞いて錦江町の多種多様な農産物の魅力に気付かされた。地元の仕事が増えれば帰ってきたい若者は多いと思う。アイデアを出し合って取り組みたい。」と話されました。

神川海岸で 地引網漁を体験

5月13日(土)、神川海岸で神川小学校、宿利原小学校、池田小学校の児童72名が地引網漁を体験しました。

これは、普段から交流のあった3校が、地元の自然に触れ合い郷土を愛する心を育てることを目的に企画したもので、3校合同での開催は初めてとなります。

同地区にある坂下水産の協力で、沖合に網を設置してもらい両端を見守り保護者、青年団で引き揚げました。

初めて体験した宿利原小学校5年生の牧原遥菜さんは、「網が重く、手がすべって大変だった。引き上げるとサメが入っていてびっくりした。」と驚いた様子でした。

体験後は、錦江湾に関する勉強会も行われ、児童達からは「フグは食べられるの?どんな魚が釣れますか?」など活発な質問が飛び交い、坂下隆則さんの説明に真剣に耳を傾けていました。



坂下隆則さん
(鳥浜自治会)

みんなが引き上げた網には、アジ・スズキ・シロダイ・クロダイ・フグ・サメ・カマスなどが入っていましたよ。このサメは歯がないので、触ってみてください。